

令和3年度 事業報告

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟

1. JBCFロードシリーズ

・令和3年は2年続けて新型コロナウイルスの感染拡大によって多大な影響を受けた一年であった。令和2年に発表した「新型コロナウイルスに関する連盟方針」に基づき、大会開催可否判断や対策を行い、大会開催に向けて関係各所と調整を続けたが、5月1～2日「きらら浜タイムトライアル/クリテリウム」、5月23日「堺クリテリウム」、6月27日初開催の予定だった「古殿ロードレース」、8月29日「椿ヶ鼻ヒルクライム」、9月5日「タイムトライアルチャンピオンシップ」、10月1日「富士山ヒルクライム」、10月16日「大星山ヒルクライム」の9戦を感染拡大防止のため中止した。さらに異常気象による大雨により8月15日「きらら浜タイムトライアル」が中止。しかしながら、連盟方針と9月5日に改定されたJCF「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドライン」を遵守しながら大会を開催。コロナ禍の中でも「石川クリテリウム」、「南魚沼クリテリウム」、「かすみがうらタイムトライアル」、「かすみがうらロードレース」の4大会を初開催。9月には代替レース1日を含む群馬サイクルスポーツセンターで3日間開催に拡大。さらには群馬サイクルスポーツセンターで逆回りの周回で開催するなど、新たな試みが数多く実現した。

・Jプロツアー

13チーム①マトリックスパワータグ、②Team BRIDGESTONE Cycling、③愛三工業レーシングチーム、④弱虫ペダルサイクリングチーム、⑤シマノレーシング、⑥CIEL BLUE KANOYA、⑦eNShare Racing Team、⑧EQADS、⑨LEOMO Bellmare Racing Team、⑩イナーメ信濃山形、⑪群馬グリフィンレーシングチーム、⑫Team Eurasia IRC TIRE、⑬稲城 FIETS クラスアクトが加盟した。

13ラウンド、19レースを計画していたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により初開催の公道レース「古殿ロードレース」を中止せざるを得ない状況となったが、群馬サイクルスポーツセンターでの代替大会を積極的に実施することで、10ラウンド、15レースを開催した。

年間個人総合優勝はホセ・ビセンテ・トリビオ選手（マトリックスパワータグ）、年間チーム総合優勝はマトリックスパワータグが獲得した。

・Jエリートツアー

19ラウンド、30レースの計画であったが、各ヒルクライム大会を始めとした普及大会中止の影響で大会数が減少し、11ラウンド、19レースが行われた。個人総合優勝およびクリテリウムランキング優勝は池川辰哉選手（VC VELOCE）が獲得した。

・Jフェミニンツアー

18ラウンド、27レースの計画であったが、13ラウンド、18レースが開催され、個人総合優勝は植竹海貴選手（Y's Road）が獲得した。

・Jユースツアー

12ラウンド、14レースの計画であったが、8ラウンド、9レースとなり、個人総合優勝は木綿峻介選手（ヴィファリスト）が獲得した。

・Jマスターズツアー

9ラウンド、15レースの計画であったが、5ラウンド10レースが開催された。個人総合優勝は Sandu Ionut 選手（TeamZenko）が獲得した。

・一般大会

「100km サイクルマラソン in 袖ヶ浦フォレストレースウェイ」、「伊吹山ドライブウェイヒルクライム」、「きらら浜タイムトライアル」、「きらら浜クリテリウム」、「堺クリテリウム」、「椿ヶ鼻ヒルクラム」、「富士山ヒルクライム」、「大星山ヒルクラム」は中止。

※各大会の日程は「2021JBCF Road & Track Series レース開催スケジュール」参照

2. JBCFトラックシリーズ

① 7月31-8月1日「第55回 JBCF 西日本トラック」（岸和田競輪場）

② 8月28-29日「第52回 JBCF 東日本トラック」（松本市美鈴湖自転車競技場）

③ 11月6-7日「第52回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ」（境川自転車競技場）

上記3大会を開催した。各大会において、新型コロナウイルス感染拡大によって他団体主催大会の多くが中止となったことから、当連盟の加盟登録選手以外のオープン参加を積極的に受け入れ、多くの学生が参加した。また昨年に続きオリンピック種目であるオムニウムを実施した。

3. 新型コロナウイルスに対する取組み

自転車競技者の走る場所を提供したいという思いから、スポーツ庁や公益財団法人日本スポーツ協会等のガイドライン、および公益財団法人日本自転車競技連盟（以下、JCF）からのアドバイスをもとに制定した当連盟独自の大会開催ガイドラインを3月5日に一部改定。大会参加者や競技役員、運営スタッフなどの健康状態事前申告や、大会会場での検温、ソーシャルディスタンス確保やアルコール消毒などを徹底する形で大会運営を行った。

大会は原則、有観客開催とし、スタートリストやコミュニケなどは公式ウェブサイト積極的に情報公開を行い、密を避けるサステイナブルな運営を推進することができた。

チーム・アテンダント講習会（詳細は第6項に）のオンライン実施、YouTubeでの「オンラ

インファンミーティング」開催などの新しい取組みは、受講者の負担軽減や、新たな広報活動として、ファン獲得へと繋がった。

4. 加盟登録状況

・当年度の加盟登録状況は276チーム、1,953選手。前年比はチーム97.8%、選手91.3%となった。コロナ禍による大幅な減少は底を打ち、今後はより魅力ある大会運営を継続していくことで、当面の目標である「加盟登録者3,000名」を実現したい。

・大会参加者数は延べ6,685人（前年比112.1%）となった。新型コロナウイルスが一旦は落ち着いたものの、医療従事者や高齢の家族がいるなど様々な理由で大会参加を控えたことが低い伸び率の原因と考えられる。

5. 競輪公益資金補助事業

競輪の補助金を受けて、令和3年度の下記事業を行った。本事業の実施により、全国組織の連盟として、幅広い競技者に向けて日本各地で大会を開催し、日頃の修練の成果を示す場を提供することで競技力の向上を目指し、一般社会の自転車競技に対する正しい知識と理解を深め、自転車競技の進歩を即し普及促進を図った。また、競技団体として、安全安心な大会運営やより効果的な広報活動を求められることで、年々経費が嵩む中、当補助金の役割は大きく、また、競輪補助事業をもっと広める活動にも微力ながら注力をしていきたい。

- ① 4月14-15日 第55回JBCF西日本ロードクラシック広島大会(広島中央森林公園)
- ② 4月24-25日 第55回JBCF東日本ロードクラシック群馬大会(群馬サイクルスポーツセンター)
- ③ 7月10-11日 第10回JBCF石川ロードレース(福島県石川町)
- ④ 7月31-8月1日 第55回JBCF西日本トラック(岸和田競輪場)
- ⑤ 8月28-29日 第52回JBCF東日本トラック(松本市美鈴湖競技場)
- ⑥ 9月19-20日 第55回JBCF経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ(南魚沼市三国川ダム周回)
- ⑦ 11月6-7日 第52回JBCF全日本トラックチャンピオンシップ(境川自転車競技場)

6. 講習会

2月7日、2月27日に「JCF公認チーム・アテンダント講習会/アンチドーピング講習会」を開催した。Zoom(ウェブ会議サービス)利用によるオンラインでの実施となり、受講者数はそれぞれ46名、52名であった。2回の講習会を通じて合計で98名のアテンダント登録者が生まれ、また、この開催ノウハウにより、今後、全国からの参加がしやすくなることから、自転車競技の普及に大いに寄与することができ、非常に有意義であった。

7. 公式ガイドブック

当年は、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から作成しなかった。

8. 年間アワード

昨年は一般財団法人日本自転車普及協会の協力を得て、自転車文化センター（東京都品川区）で開催したが、今年はシマノの協力を得て大阪市のシマノスクエアで開催。シクロワイアードとbikinTVの取材があった。

9. 協賛

新たにユースツアー冠協賛として弱虫ペダルが決定。令和3年度のオフィシャルパートナーはシマノセールス株式会社、パナソニックサイクルテック株式会社、株式会社あさひ、一般社団法人自転車協会、株式会社パールイズミ、株式会社スポーツ IT ソリューション、弱虫ペダルの8社、サイクルアクティブプログラムとして、コーユーレンティア株式会社、株式会社NIPPO、株式会社オージーケーカブト、マヴィックジャパン株式会社、井上ゴム工業株式会社、LAP CLIP（株式会社マトリックス）、J SPORTS、PR TIME、PUPURU（株式会社ププルインターナショナル）、POWER BAR（有限会社パワースポーツ）、LEOMOの11社、合計19社から、ご協賛いただいた。

10. 広報

・J SPORTS（株式会社ジェイ・スポーツ）、LAP CLIP（株式会社マトリックス）に広報活動の協力を頂いた。

・J SPORTS 番組内にて、Jプロツアアのレースリザルトを放映した。日本のサイクルロードレースファンに対して、広くJプロツアアの映像を届けることができた。

・LAP CLIPは本年も全戦において協力いただき、各クラスターのラップタイムや順位を速報として公開。参加者やファンにとっても、大会役員や運営サイドにとっても、リアルタイムの計測情報は、新たな観戦の魅力創出とともに、大変重要な情報となっている。

・開催したJプロツアアレースをYouTubeでライブ配信した。有観客開催であったが、より多くのファンに映像という形でレースの模様を伝えることができたのみならず、YouTubeコメント欄やSNSにおけるファン同士の活発なコミュニケーションのきっかけを作ることができた。

・3/30(火) 19:50 からJプロツアアチームや選手のPRの場として、「JBCF 石川サイクルロードレース（Zwift ミートアップ）」を実施し、Jプロツアア選手とファンによる交流の場として、石川ロードレースの思い出や今シーズンの意気込みをJプロツアアYouTubeチャンネルにて配信した。

11. その他の取り組み

・アマチュアサイクリストアドバイザーコミッティ(ACA委員会)が発足。

経験豊かな4名のアマチュアサイクリストがレースをより充実した魅力あるものにする提言を

いただいた。

・新田祐大選手がトラック技術顧問に就任

ロードレースの基礎的技術や戦略の習得の場としても非常に有用と考えられるトラック競技が持つ本質的な価値を競技レベルの向上に向けた活動として取り込むべく、トラック委員会を立ち上げ、アドバイザーとして新田祐大選手が技術顧問に就任。

・動画配信に関する新しい試みとテクニカルアドバイザー就任

株式会社 THREE IS A MAGIC NUMBER 代表取締役・映像ディレクター北山 大介氏と LANDSCAPE エグゼクティブマネージャー・テクニカルスペシャリスト・シネマトグラファー熊木浩司氏がテクニカルアドバイザーに就任。

以上